ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

アテネオリンピック
ハンドボール競技アジア予選
兵庫・神戸大会開催にあたって

(財) 日本ハンドボール協会常務理事・競技本部長　**江成 元伸**

本年9月23日（火）から9月29日（月）まで、兵庫県神戸市においてアテネオリンピックハンドボール競技アジア予選兵庫・神戸大会を神戸グリーンアリーナで開催する運びとなりました。

ご承知の通り、我が国のハンドボール界は男子はソウルオリンピック以来、女子はモントリオールオリンピック以来の出場をかけての、文字通りの悲願の決戦であります。シドニーオリンピックアジア予選熊本大会に続いての日本での開催でありますが、前回の経験を生かし、日本代表チームは地元開催の地の利を充分に活かしてオリンピック出場権を獲得して欲しいと期待するものであります。

過去に日本で開催した国際大会は、1994年に広島県で開催した広島アジア大会、1997年に熊本県で開催した男子世界ハンドボール選手権大会、2000年に熊本県で開催したシドニーオリンピックアジア予選熊本大会など、数多くありました。特に、1997年の世界大会を開催した大会運営の経験は大きく、その後の国際大会を開催するにあたって大きな自信をもたらしてくれました。今回の大会もこれらの経験を充分に生かし、大会を成功させようと多くの人のご協力を得て、全力を挙げて取り組む覚悟をしたところであります。

アジアハンドボール連盟から今回の参加国は、男子が日本・韓国・中国・チャイニーズタイペイ・クウェートと４ヶ国と１地域の５チーム。女子が日本・韓国・中国・カザフスタンの４ヶ国４チームとなったと発表されました。日程、組み合わせも最後の確認をしているところですが、まもなく決定されるところであります。

兵庫県神戸市は過去に、全日本総合ハンドボール選手権大会やアジアサーキット、フランス代表チームを招いたスーパーチャレンジ2002などの、国内最高の大会や国際大会を数多く開催してきた実績を持つ都市であります。これまでの経験をさらに磨き上げ、大会運営はもとより観客動員、応援態勢の整備にと、日本協会と兵庫県ハンドボール協会の連携を取り、参加する全チームが申し分ない環境の元、試合が出来るように万全の準備をする計画を立て、推進しているところであります。

この大会開催期間中は全国のハンドボール加盟団体にご協力をお願いし、多くの人が日本代表を応援するために神戸に来られるようご依頼をしているところであります。また、本大会開催中に国際ハンドボール連盟の理事会が開催されることが決定されました。世界の最高のハンドボール役員が来日されるこの機会を利用して、可能な限りの講習会を開催することも検討しております。日本代表の試合日が必ずしも休日、祝日とは限りませんが、どうか全国のハンドボール愛好者の皆様方のご観戦、応援を期待しております。また、会場に足を運ぶことが出来ない皆様方にも応援メッセージを募る計画もしております。多くの皆様方のご支援により悲願達成のためにご支援とご協力を賜るようお願い致します。

顧問紹介

平成15年度より、東京大学ハンドボール部ＯＢで、和歌山県ハンドボール協会顧問の参議院議員、鶴保庸介氏に、(財）日本ハンドボール協会顧問としてご指導、ご助言を頂くことになりました。鶴保氏からコメントを頂いておりますので、以下に紹介致します。

㈶日本ハンドボール協会

顧問　鶴保庸介

（参議院議員・国土交通大臣政務官）

選手としてかかわった高校、大学時代から数えて十数年。改めてハンドボール協会のために微力を尽くさせていただくことになった。練習のきつかったことは今でもよく覚えているが、それだけに選手の皆さんの流す汗や涙が人一倍心にしみたりする。炎天下の練習場で泥だらけになりながらの努力はつらいことの連続であった。筋肉痛や怪我は当然のこと、時には救急車で運ばれて行ったチームメイトもいたぐらいで、「だまされたと思って」と勧誘した指導者が失礼ながら詐欺師のように思えたこともあった。しかし、目的を共有する仲間がいたことですべてはいい思い出となっている。試合で苦労して練習してきたフォーメーションプレイが決まったりするときの、なんともいえない連帯感は経験したものでなければわからない。

私は、ハンドボールは球技のなかの球技であると考えている。チームプレーを要求される競技はあまたあるが、ハンドボールは単発のアクションで得点する競技でもなければ広いコートで長いパスを繰り返す競技でもない。人いきれが聞こえる距離で、連続した動作、目と目をあわせた一瞬の呼吸が勝負を決することのできるスピード感あふれる競技である。だから特に人との呼吸を大切にできる。味方がどう動くか、声で連携し、相手がどう動くか、思考で制する。

確かに、ハンドボールは手さえあればほかにこれといった用具は要らない。サッカーなどと違って普段の感覚で投げたりつかんだりできるので、見た目にも派手さはない。しかし、先述したように経験者にはわかる多くの感動を呼び起こすことのできるスポーツなのである。

このような場合、感動した者の常として、その感動を誰かにも分けてあげたいという欲求に駆られる。

現実にはこうした多くのハンドボールの奥深さを知るものはまだまだ十分だとはいえないと思っている。私はハンドボールを愛する者の一人として、こうした感動が一人でも多くの方々に共有してもらえるよう、協会諸氏のご指導を仰ぎながら裾野を広げることに微力の限りを尽くす決意である。

今度は「だまされたと思って」と誘う番である。

米倉 功前会長慰労会開催される □□□□

平成4年4月～平成7年3月までの3年間副会長として、平成7年4月～平成15年3月までの8年間会長として、指導を賜りました米倉功前会長慰労会が開催されました。また、今年度からは名誉会長としてご指導を賜ることになります。慰労会は思い出話に花が咲く中、和やかに進み、最後に大西専務理事の米倉名誉会長の今後益々のご健康と、ご発展を祈念するエールによって幕を閉じました。

日　時：平成15年6月9日（月）
場　所：南国酒家本店（渋谷区神宮前）
参加者：米倉功名誉会長、渡邉佳英会長、冨田寛治、山下　泉、市原則之（以上副会長）、大西武三専務理事、松原光三、川上憲太、角　紘昭、江成元伸、齊藤　実、緒方嗣雄、石井　勝（以上常務理事）、大野金一、竹野奉昭（以上監事）、安藤純光元専務理事、佐野和夫元幹事、事務局員4名、機関誌担当1名

ハンドボールの発展を祈る

米倉 功名誉会長

本日は、盛大なる会を催して頂き有難うございました。ハンドボール競技との関わりは1984年に、斎藤英四郎前会長から全日本学生連盟の会長をやれと言われたことに始まります。それからですから足かけ20年になります。熊本での世界選手権開会式でのことは今でも覚えておりますし、フランス戦では鳥肌が立つほど興奮致しました。また、昨年の高知国体では天皇皇后両陛下とハンドボールについて話をしたことも思い出です。会長を退くにあたっては、さらなる底辺拡大による発展を願っております。これからも、名誉会長として少しでもハンドボール競技の力になれたらと思います。

米倉前会長へのお礼のことば

渡邉佳英会長

長い間本当に有難うございました。米倉前会長のお力なくして1997年の熊本世界選手権の成功はなかったかと思います。何度も日本リーグオーナー会議を招集されたり、協会執行部を叱咤激励して頂きました。フランスを後一歩の所まで追いつめ、勝利を逃したのが残念でした。スポーツは低迷している中、名誉会長として今後もハンドボール競技のためにお力をお貸し頂けますことをお願い致します。

機関誌編集委員会の責任に於いて、会で話された内容を文章化致しました。紙面の都合上全員分は載せられませんでした。

米倉名誉会長の思い出

市原則之副会長

ＪＯＣや日体協の会議で、よくハンドボール協会の名誉会長、会長はすごい人がなられているねと言われます。お陰様で私たちハンドボール協会の役員も鼻を高くして活動が出来ると感謝しております。米倉名誉会長の思い出としましては、夏の炎天下の中、ゴルフをご一緒させていただいたときのことがあります。私どもがバテている中、タオルで汗を拭かれながら名誉会長がしっかりとした足取りで18ホールを廻られたことです。熊本世界選手権開会式では高い台の上で足が震えたとおっしゃっておられましたが、まだまだお元気でいらっしゃいます。これからも今迄通り高い席へ、ぜひ顔を出していただきたいと思います。

就任依頼秘話

大野金一監事

米倉名誉会長をハンドボールの世界に引き込んだのは実は僕なのです。専務理事の時、斎藤会長に全日本学連の会長の推薦をお願いしました。そして、全日本学連会長に就任していただいたのがきっかけと思っています。その間、米倉会長の御尽力により日本のハンドボールは発展してきましたが、問題はこれからです。ハンドボールをメジャーにすることこそが本当の恩返しであると思います。名誉会長も話されたように底辺を拡大すること、いかに小学生に普及させるかにかかっています。名誉会長にはまだまだお力をお借りすることになるでしょうが、よろしくお願い致します。

松本重雄氏が勲４等瑞宝章受章

松本重雄氏

受章お祝い

（財）日本ハンドボール協会専務理事　**大西武三**

この度、日本協会の常務理事として、また監事をもされていた松本重雄氏が勲４等瑞宝章を授与されましたことに、心からお祝い申し上げます。松本氏は、戦後、墨田川高校を皮切りに教職につかれ、指導主事や中学校、高等学校の校長を歴任され、最近まで墨田区の教育委員として活躍されていました。今回、教育者としての功績大なることが認められ受章となりました。氏は剣道の達人ですが、戦後武道が禁止されたのを契機にハンドボールに携わるようになり、学生時代は第一回全日本学生王座決定戦で優勝など活躍されました。指導者としても墨田川高校では、インターハイに出場（第２回ベスト８）するなど指導力には定評があり、指導を受けた多くの門下生がハンドボール界で活躍していることは、周知の通りです。また、国際的にも、西ドイツで開催された第４回室内ハンドボール世界選手権大会には日本選手団のコーチとして手腕を発揮されました。

今後とも健康に留意され益々の御活躍をお祈りしてお祝いの言葉と致します。

東　嘉伸氏
ミズノ・スポーツメントール賞受賞

東嘉伸（右）と㈶ミズノスポーツ振興会会長水野正人氏（左）

日本ハンドボール協会評議員（大阪府）で、大阪ハンドボール協会副会長の東嘉伸氏が2002年度ミズノ・スポーツメントール賞を受賞されました。

氏は公認Ａ級コーチとして、堺市ハンドボール連盟会長、大阪ハンドボール協会副会長、日本ハンドボール協会評議員として広くハンドボールの普及・発展に努められてきました。また、日本ハンドボール協会強化コーチとして第21回オリンピック競技大会（モントリオール）、第９回・10回ハンドボール世界選手権大会及び第１回・２回アジアハンドボール選手権大会において選手の指導・強化に貢献されました。また、平成10年から現在まで大阪体育協会理事及び大阪ドッジボール連盟副会長として、ハンドボールのみならず生涯スポーツの普及・振興に寄与し、生涯スポーツ社会の実現に向け尽力されており、その功績が高く評価されました。

ミズノ・スポーツメントール賞は、㈶日本体育協会、㈶日本オリンピック委員会と共催で、㈱ミズノが1990年度よりを制定したもので、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定されたものです。

ハンドボール競技では竹野奉昭氏（99年）、井薫氏（01年）が受賞されています。

ムササビ２世　アテネに舞え!!

～宮崎大輔　飛ぶ～

３月21日のプレーオフから発売されたムササビＴシャツが好評です。機関誌でも５月号にて購入方法をお知らせしたところ多くの方から反響が得られています。生地はゲームシャツと同じ素材で練習着にぴったり。

日本ハンドボール協会では、更に多くの方に着て頂きたく今回、アテネの星、宮崎大輔選手をメインキャラクターとして拡大販売を開始いたしました。是非この機会にご購入下さい。詳しい購入方法は機関誌５月号16ページに掲載。また、各種全国大会会場でも販売致します。ムササビＴシャツを着て全日本を応援しよう。

長嶋監督から激励のメッセージ

頑張れアテネ!!

スピード感あふれるハンドボールの魅力

真剣なまなざしの長嶋監督と説明する市原副会長。
左は渡邊会長。

3月23日駒沢体育館で行われた日本リーグプレーオフ男子決勝戦を観戦された読売巨人軍名誉監督で、この度ＪＯＣのエグゼクティブアドバイザーに就任された長嶋茂雄氏からハンドボール競技に熱いメッセージが寄せられた。メッセージは読売巨人軍の公式ホームページに掲載されました。以下に、管理者の許可のもと全文を掲載致します。

ハンドボールとの関わり

久しぶりにハンドボールの試合を見ました。３月23日、東京・世田谷区にある駒沢体育館で行われた第27回日本ハンドボールリーグのプレーオフ最終日です。ホンダ対湧永製薬の間で行われた決勝戦に、私も興奮させられました。

ハンドボールという競技とはこれまであまり縁がありませんでした。しかし昨年６月に行われた日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）主催の「コーチ会議」に顔を出したのが、今回の観戦のきっかけとなったのです。

コーチ会議の中で五輪競技の指導者の皆さんを対象に講演がありました。その司会者として一緒に壇上に上がったのが、ＪＯＣの常務理事（当時）で日本ハンドボールリーグ機構会長の市原則之さんだったのです。講演後、市原さんから「プレーオフの決勝戦を観戦してください」と誘っていただいていたのです。

会場にて

会場には、ホンダ、湧永製薬両チーム応援団の熱のこもった声援に加え、女性ＤＪの流暢な英語も交えた場内放送が響いていました。ＦＭラジオの音楽番組を思わせる軽やかなアナウンスが、華やかな雰囲気を演出していました。

盛り上がる会場同様、試合も白熱したシーソーゲームとなりました。試合は29－29で、10分間の延長戦にもつれ込み、最後は35－34で、ホンダが湧永製薬を振り切り、５年連続７度目の日本一となりました。

私個人は、どうしても外せない所用を抱えていたため、前半戦が終わったところで会場を後にしたのですが、後ろ髪を引かれる思いでした。それほど両チームのプレーぶりが素晴らしかったこともあり、ハンドボールという競技が非常に面白く感じられたのです。

なにより強く惹かれたのは、スピード感です。サッカーなどと比べて、試合のテンポというかリズムが非常に速いのです。コートのサイズが40メートル×20メートルと、サッカーのほぼ半分であるため、いわゆる中盤でのせめぎあいというのがありません。

たとえば攻撃していた側のシュートがキーパーによって阻まれると、わずか１．２秒後には攻守が逆転し、攻めていた側が今度は大急ぎでゴール前へ戻って守りを固めなければなりません。コートが狭いため、常にプレーはどちらかのゴール前で行わているため、見ている側もずっと緊張感を維持できるのです。

スピード感に感激

しかも選手の交代は自由です。交代エリアに選手が戻ってさえくれば、別の選手がさっとコートへ入ることが可能なのです。しかも試合中､出退場に回数の制限がありませんから、守りから攻撃へ転ずる時には、守備のスペシャリストが交代エリアへ全速力で戻り、ポイントゲッターが攻撃に参加するということを繰り返せるのです。

そのあたりがサッカーと大きく違うのですが､加えて監督、コーチが審判に交代を告げる必要がないため、試合が交代によって止まるということがありません。よって野球で言うところのボールデッドの状態が非常に少ないため、試合のスピード感をサッカー以上に感じるのです。

今、同じコート内でボールを使う競技という意味で、ハンドボールをサッカーと比較しましたが、いささか趣きの異なる野球と比較すると違いはさらに顕著です。野球では３アウトで攻守が交代するため、その間、非常に間延びした感じを与えます。さらに代打、あるいはリリーフ投手投入など、選手交代も監督が審判に告げないと､選手は出場できないため、この間も試合は止まっています。

確かにボールが止まっている間に、次の展開をあれこれ想像できる点が野球ファンにとっては楽しいという側面もあるのでしょう。ただ、スポーツ観戦の醍醐味は、緊張感の持続にあるともいえるわけで、その意味では試合があまり止まらないハンドボールの持つ圧倒的なスピード感には、野球はかなわない面もあるといえます。

やはり異なる競技を見ると、野球の持つ長所、短所を再発見できるものです。攻守交代、あるいは選手交代の時間をできるだけ短縮し、間延びした印象、そして弛緩したムードを球場内に醸成させない努力も必要でしょう。ハンドボールを見ながら改めて認識させられました。

▶▶ アテネに向けて　－全日本男子・女子監督からのコメント－ ◀◀

アテネオリンピックを目指して

全日本男子監督　田口　隆

いよいよ９月23日から、アテネオリンピックの出場権獲得を目指したアジア予選が神戸で開催されます。オリンピックといえば私が言うまでもなく、アスリートにとっては最高の舞台でしょうし、そのアスリートを支えている人々にとっても同じことが言えると思います。４年に１度のチャンスしかないことと、エントリーできる国々が少ないことなどを考えたときに、オリンピックに出場することは、１人のアスリートとして一生に何度もあることではないでしょう。このチャンスを29名のナショナル選手とチームスタッフで一丸となり勝ち取りたいものです。

幸い予選を控え、選手のコンディショニング管理をする上でトレーナーの増員・医科学スタッフの積極的な参加など今まで以上のサポート体制が得られました。また、私たちのトレーニング、試合での成果確認をするためのデータ、対戦相手の戦力分析データの供給をしていただく分析サポートチームも本格的に立ち上がりました。色々なナショナルチームをサポートしていただく体制は整いました。後は、残された期間に私たちが、如何に質の高いハンドボールを構築できるかにかかっています。改めて責任の重さをひしひしと感じていると共に、自分自身・チームが大きく飛躍できるチャンスであるとも考えています。

９月23日に神戸で、自分自身を信じること、チームメートを信じること、多くの方々の声援など地元での利を信じることが出来れば、夢は現実となると思います。その日まで精一杯頑張っていきます。

闘争心に溢れ、プレッシャーに打ち勝つ

全日本女子監督　西窪勝広

全日本活動に関しましては暖かいご支援に感謝いたしております。

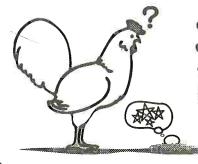
02年度の成績に関しましては頂点を預かる責任者としては深く反省しております。昨年の反省を踏まえ03年度の重点項目を「アテネオリンピック出場権獲得」とし、念頭におき活動して参ります。

関係各位のご努力でアテネ予選まで全てのスケジュールをナショナル中心で進めていただき責任の重さを強く感じております。メンバーチェンジをしないオールラウンドプレーヤー育成と強化に努め、得点25点以上、失点25点以下のゲーム展開を課題として取り組んで参ります。闘争心に溢れ、プレッシャーに打ち勝つ個々のメンタル強化は、寝食を共にし、質の高い経験を積み重ね、自分は相手よりも勝っているという気持ちを日々のトレーニングで養って参ります。

中国・カザフスタンの大型チーム対策としては高校男子との合同合宿で、そして韓国のスピード対策には韓国実業団チームとの合同合宿で実戦経験を積ませる事で選手個々の自信に結びつくと感じております。

全ての事に、なり振り構わずチャレンジし、日本で、神戸でアテネオリンピック予選を開催してよかったと皆様に言われるよう頑張って参ります。

今後とも暖かいご支援、ご声援の程宜しく御願い申し上げます。

アテネ迫る！！

壮行試合を会場で応援しよう！

- サポーターは8番目の選手だ！
- 選手の活力は我々の応援だ！
- 声援で選手をバックアップ！
- 会場で応援Tシャツで埋め尽くそう！

HANDBALL INTERNATIONAL MATCHES

JAPAN vs EGYPT

エジプトのエース・ザキ

JAPAN CUP '03

アテネオリンピック・アジア予選壮行試合

日本代表－エジプト代表

2003年7月17日～20日

横浜大会 7月17日（木）18:00～ 横浜文化体育館

名古屋大会 7月19日（土）15:00～ 枇杷島スポーツセンター

福井大会 7月20日（日）15:00～ 福井県営体育館

日本のホープ 宮崎大輔

主催 （財）日本ハンドボール協会 http://www.handball.jp

主管 神奈川県ハンドボール協会 愛知県ハンドボール協会 福井県ハンドボール協会

特別協賛 本田技研工業株式会社

協賛 樹の恵販売株式会社

≪協賛≫ （平成15年5月31日現在）

◎日本ハンドボール協会平成15年度ご協賛企業

本田技研工業株式会社　様

◎アテネオリンピックアジア予選兵庫・神戸大会にご協賛いただいた方々

【個人】 斉藤 達也　様

越智 武　様

【企業】 樹の恵販売株式会社　様

日本舗道株式会社

富士ゼロックス株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社アシックス

株式会社モルテン

【都道府県、連盟】 北海道　岩手県　山形県　栃木県　群馬県　千葉県　東京都　山梨県　長野県　新潟県　石川県　静岡県　愛知県　京都府　奈良県　和歌山県　鳥取県　広島県　山口県　香川県　福岡県　大分県　鹿児島県　全日本実業団連盟　全日本教職員連盟　全国高等学校体育連盟　日本車椅子連盟

【市町村】〈北海道〉紋別市　帯広市　旭川地区

〈富山県〉富山市　〈静岡県〉静岡市　富士宮市

〈愛知県〉名古屋市　岡崎市

〈大阪府〉堺市　岸和田市　〈兵庫県〉神戸市　高砂市

〈福岡県〉久留米市

ご協賛いただき、ありがとうございます。

日本ナショナルチーム男女チームは皆様のご期待に沿えるよう、全能をふりしぼって頑張ります。

アジアの秩序回復のために 東アジア連盟発足

アジア地域におけるハンドボール競技の健全な運営のための永年の懸案であった、東アジア連盟の発足調印式が、4月7日北京・門前ホテルにおいて行われた。日本側からは山下泉副会長、韓国からはユウ・ジェチュン韓国ハンドボール協会専務理事、中国からは吴寿章中国オリンピック委員会副主席、胡建国中国ハンドボール協会主席らが出席した。王立傍中国ハンドボール協会専務理事、邓立中国ハンドボール協会事務局長が出席した。会議の冒頭、組織名称が『東アジアハンドボール連盟（EAHF)』と承認され、役員構成が、下記のように承認された。引き続き、2003年9月に東アジアジュニアハンドボール選手権を韓国で、2003年東アジアハンドボールコーチトレーニングコースを中国で開催する等が決定した。

★ＥＡＨＦ役員★

会　　　長：リー・マンセク（李萬錫　KOR)
アドバイザー：キム・ジョンハ（KOR)、
渡邊佳英（JPN)、
ウー・ショウツァン（吴寿章　CHN)
副　会　長：山下　泉（JPN)、
リー・ガオチャオ（李高潮　CHN)
専務理事：ユウ・ジェチュン（柳在忠　KOR)
財　　　務：山下　泉（JPN)

★理　事　会★

会　　　長：リー・マンセク（李萬錫　KOR)
副　会　長：山下　泉（JPN)、
リー・ガオチャオ（李高潮　CHN)
専務理事：ユウ・ジェチュン（柳在忠　KOR)
財　　　務：山下　泉（JPN)
メンバー：大西武三（JPN)、
ワン・リウェイ（王立傍　CHN)、
コウ・ビュンフン（高丙勛　KOR)
ＣＯＣ委員長：ソン・タエイェル（孙泰烈　KOR)
ＰＲＣ委員長：リー・ツィウェン（李之文　CHN)
ＣＣＭ委員長：ウィ・イォンマン（魏崇万　KOR)
ＭＣ委員長：市原則之（JPN)

★常任理事会★

会　　長：リー・マンセク（李萬錫　KOR)
副会長：リー・ガオチャオ（李高潮　CHN)
専務理事：ユウ・ジェチュン（柳在忠　KOR)
財　　務：山下　泉（JPN)
メンバー：市原則之（JPN)、
ワン・リウェイ（王立傍　CHN)、
コウ・ビュンフン（高丙勛　KOR)

★ＥＡＨＦ委員会★

競技開催委員会（ＣＯＣ）
委員長：ソン・タエイェル（孙泰烈　KOR)
メンバー：江成元伸（JPN)、デン・リー（邓立　CHN)

競技規則及び審判委員会（ＰＲＣ）
委員長：リー・ツィウェン（李之文　CHN)
メンバー：後藤　登（JPN)、
ファン・チビョム（黄牟范　KOR)

コーチング及び競技手法委員会（ＣＣＭ）
委員長：ウイ・ユンマン（KOR)
メンバー：笹倉清則（JPN)、ファン・デグォ（黄德国　CHN)

マーケティング委員会（ＭＣ）
委員長：市原則之（JPN)
メンバー：コウ・ビュンフン（KOR)、
石井　勝（JPN)、
ツォン・ウェイフェン（宗ヱ峰　CHN)

右下より胡建国中国協会主席、山下副会長、ユウ・ジェチュン専務理事
右上より王立傍中国協会専務理事、邓立中国協会事務局長

連盟の覚書に従い、以下の大会が開催されることが決定し、選手を派遣致します。

東アジアジュニア選手権　2003. 8. 30～9. 6　韓国・ソウル

学連だより　第3回関東プレシーズンマッチ・ミニミニカップ開催

シーズン開幕直前、試行錯誤で作る大会

関東プレシーズンマッチ・ミニミニカップ実行委員長
順天堂大学ハンドボール部監督　東根 明人

昨年に引き続き平成15年3月18日～20日まで東京駒沢体育館において第3回関東プレシーズンマッチ・ミニミニカップが開催された。参加校は、明治、中央、順天、横浜商科、東京、明治学院、東京理科、武蔵工業、駒沢、慶応、茨城、明星、白鴎、帝京の14チーム。1部から7部までと幅広い大学から参加。運営は大学生による自主運営で行われた。最終日午後には、NTS技術委員の栗山雅倫氏による実技講習会があり指導者のいない大学では好評であった。特にGKの講習では多くの参加者が納得をしていた。また、日本協会審判部審判審査委員の島田房二氏によるステップに関する講習もタイムリーで、新しいシーズンに向けて有意義な講習会となった。

シーズン開幕直前の調整はチームにとって大切で、課題山積である。特に大学生の春シーズンは主力4年生の卒業に伴い新チームで臨む初めての大会である春リーグ間近に迫っている。新しいポジションの確認や、新入生の戦力構想チェックなどすべき事は山のようにある。その様な時期における他大学との練習試合は欠かせない。関東学連では、このようなチームの課題克服のために㈱ミニミニの協賛によりプレシーズンマッチを開催し、今年で3回を数えた。

新しい試み

第1回2001年は3会場で練習試合を数多くこなすことに主眼をおいた。このため、試合数をこなすことは出来たが実戦の中で細かな課題まで修正するところまで至らなかった。第2回は、東京都体育館、駒沢体育館、駒沢屋内球技場を会場にチームに目標を設定するため大会形式で行う。また、大会運営を学生で行うために実行委員会を編成したのも特色の一つであった。1、2日目は予選リーグ、3日目は上位、下位のトーナメントによる順決定戦をおこなった。このためチームは朝早くから、夕方遅くまでたっぷりと試合を行うことは出来たが集中力の面から怪我人も出てしまった。

以上のような反省点をふまえて今年は以下のような新たな試みのもと大会を実施した。

①男子1部～8部まで全ての加盟チームに案内を発送。

②参加希望チームが出そろったところでグループ分けを行う。グループは希望がない限り、出来るだけ力の差がないような大学で構成した。

③体育館にいる時間を極力短くするため1グループは3時間内に30分のハーフゲームが3試合できるように調整を行った。

④ゲーム時間を効率的にするためゲーム間隔を極力短くし、審判員も各チームから出し合って行った。

参加チームの声

東京大学ハンドボール部　浅野 俊策

ミニミニカップの試合では、通常対戦することのできない2部や4部の相手とも対戦する機会を持つことで、自分たちのチームの課題がより明確になり、昇格のために何が必要かを考えるにあたり非常に大きな判断材料を提供していただけました。特に格上チームとの対戦は自分たちのチームに欠如しているものが顕在化しやすく、大変有意義でした。この機会で得たものを無駄にせず、課題を練習の中でひとつずつこなしていくことにより、強くなっていきたいと思います。ありがとうございました。

東京大学ハンドボール部　星加 康智

技術講習会では、GKの技術について教えていただきました。専門的に教わったことのない自分としては、とてもためになることばかりでした。栗山さんに教わったことで小さいキーパーの自分はどのようなことを考えて守ればよいかをはっきりと示していただきました。このような機会にめぐりあえて本当によかったです。

今大会は参加チームからはこの方法はおおむね好評で、成功裏に幕を閉じた。懸案の選手の体調管理もうまくいき、集中力欠如による怪我人などもみらなかった。また、審判員を相互に出し合ったことにより、判定をめぐるトラブルも皆無であった。

最後になりますが、このような企画が実現できましたことに対しまして㈱ミニミニ企画に感謝すると共にお礼を申し上げます。

J級公認指導員養成講座（茨城）開催される

平成14年度から制定された「(財)日本ハンドボール協会Ｊ級公認指導員規定」に基づいた養成講座が、平成14年度は７都県（千葉、東京、愛知、岐阜、宮崎、熊本、茨城）において開催された。今号においては茨城県で開催された講座の内容についてレポートする。参加者は実際に指導の最前線に立たれており、講師の話を熱心に聞き、参加し、理解されているようであった。
期日：平成15年３月２日（日）　場所：筑波大学　受講者：一般23名、学生27名

講習内容

①挨拶
銭谷　格（つくば市ハンドボール協会会長）
大村　久（茨城県ハンドボール協会理事長）

②講習　７才から15才までの学童理解
（１）身体的・精神的発達に関して
（水上一：日本ハンドボール協会強化委員）

ハンドボール競技での指導者の目標には「プレーヤーを育てる」と「チームを強くする」の両面がある。学童指導の場合には、自発的行動が取れ、プレーヤーの行為に基づいたゲームを創造し、ハンドボール文化の発展に寄与できるプレーヤー育成に重点を置くべきである。そのためには、指導者が、知覚的水準、理解力の水準、共同活動の水準、神経ー運動系の水準などを念頭に日々の指導に当たらなければならない。

（２）スポーツ障害について（田村耕一郎：日本ハンドボール協会医科学委員）

発育期スポーツ障害の特徴、予防と対策、熱中症、ストレッチング・ウォーミングアップ・クールダウン、応急処置などについて具体的事例や骨格模型を用いて丁寧に説明がなされた。

③講習　スポーツ教育の具体的活動事例報告
（１）筑波学園クラブ（大西春子）

設立18年を数える茨城でも草分け的クラブの活動が具体的事例で説明された。クラブ員勧誘、会の運営、活動場所の確保、クラブ組織、役割分担、練習当日の活動日程、練習内容、コート作りと後かたづけ、運営経費にいたるまで。

（２）中学生の指導
（辺見芳宏：守谷市立御所ヶ丘中学校）

全国中学校優勝をはじめ県内屈指の実績を誇る指導者の生の声を聞くことが出来た。中学校における部活動は教育活動の一環で、生徒一人一人を大切にしていく活動である。そのためには保護者、地域との連携は欠かせない。部員は家族であり、コートで顧問は親、先輩は兄、後輩は弟と考えている。指導者としてうれしいことは、中学卒業後も高校や大学でハンドボールを続けてくれる生徒が多いことだと述べられた。

④実技１　小学生を対象に
（河村レイ子：筑波大学）

筑波学園クラブの小学生をモデルに遊びの要素を盛り込んだ楽しいハンドボールの指導が行われた。小学生は嬉々としてボールを追いかけ、パスをし、シュートを行っていた。

⑤実技２　中学生を対象に
（水上一：日本ハンドボール協会強化委員）

つくば市立手代木中学校の生徒をモデルに体の動かし方から、パス、ゲームの組み立て方まで段階的に指導する方法が示された。

運営責任者の声

増田　徹（茨城県ハンドボール協会普及・指導委員、守谷市立けやき台中学校教諭）

（１）講習会を開催するまでの経過について

・(財)日本ハンドボール協会より県ハンドボール協会に開催通知を受け、県協会理事長より、実施計画案を作成し実施するよう指示を受けた。（12月）
・実施計画案を立案。開催場所・参加対象・講師の検討。（１月）
・講習会内容検討、打ち合わせ・連絡調整。（２月）

開催場所となるつくば市ハンドボール協会、つくば学園ハンドボールクラブ、筑波大学の先生方への相談や講師・会場の依頼。
・講習会開催通知を関係団体、関係指導者に通知し、参加者を募る。（２月）

Ｊ級指導員の規定に基づき、目的に合致し、対象となる指導者に知らせる。

対象：小学生指導者（少年団など）、中学校指導者、今後指導者となる者など。
・講習会の開催（３月２日：筑波大学体育館等において７時間の講習を実施）

（２）講習会開催での苦労や気づいたこと

・講習会の決定において、本県の実情から小学生ハンドボールの盛んな地域をピックアップし、その中で来年度創設20周年を迎える「つくば学園ハンドボールクラブ」にお願いし、快く引き受けていただけた。日本協会専務理事で筑波大学大西武三先生のご指導のもと開催できた。また、講師に筑波大学の水上一先生や河村レイ子先生、田村耕一郎氏、もと水海道西中の辺見芳宏先生の実践に基づく講義や実技指導をしていただけたことは内容の濃いものとなった。心より感謝しています。
・初回の開催にもかかわらず、50名を超える参加者となり、15歳以下のハンドボーラーを育てる指導者の熱意を感じた。更に筑波大学の学生の参加など若き未来の指導者が参加してくれたことも合わせて嬉しい限りである。
・次年度以降、守谷・水海道・麻生などと開催場所を変えていきたいと考えている。

受講者の声

◆谷古宇百合子
（麻生フェニックスJr. コーチ）

Ｊ級指導員認定講習会に参加して改めて感じたことは、成長段階にある子ども達を指導するにあたっては、技術指導に固執してしまうばかりではなく、心の成長にも配慮して自ら考える力を伸ばしてあげられるような指導をしなくてはならないのだということです。

また、今までクラブの運営などについては、他のチームの話を聞く機会がなかったのですが、今回クラブのあり方について沢山の意見が聞けて今後の運営の参考になりました。

◆滝川剛司（スポーツ少年団水海道ハンドボールクラブ監督）

今回、Ｊ級指導員養成講習会に参加し、水上先生をはじめとする各先生方の指導を受け、自分が少年団を指導する立場でこれからどのように子ども達に接するか、どのようなことに注意し指導していくかなど多くのことを勉強させていただきました。ハンドボールというスポーツを通し、未来ある子ども達に夢を与えると共に技術の向上、集団行動での意識づけなど、指導者としての心得を改めて感じました。今回の講習会を生かし、これからの指導に力を入れていきたいと思っております。

審判部だより

平成14年度 審判部 合同委員会

日　時　平成15年1月25、26日
会　場　国立スポーツ科学センター
出席者
日本協会専務理事：大西武三
審判部部長・日本リーグ委員長：斉藤実
副部長・国際委員長：後藤登
審査指導委員長：福田英明
審査指導委員：島田房二、越田義昭、川島克之
ブロック審判長：倉本紘一（北海道）、田村登（東北）、上久保重次（関東）、中山光広（北信越）、板倉孝雄（東海）、北山隆（近畿）、東昌弘（中国）、竹村久晴（四国）、森山正治（九州）
連盟審判長：喜井美雄（実連）、島崎政治（教職員）、細沢覚（高体連）、斉藤仁宏（中体連）
競技規則委員長：岸本光夫
総務委員長：花野誠一
総務委員：兼田佳博、北村善夫、永春文義
※会に先立ち大西専務理事、斉藤審判部長より挨拶がなされ、議事に入る。

■報告事項

1．審判部活動報告
⑴平成14年度審判部事業報告
①公認A、B級審判審査結果について
A級は28名中15名合格
B級は43名中33名合格
②全国大会審判ノミネートについて新方式で行ったことが説明された。来年度も今年度と同様の方法をとる。
③トップレフェリー研修会について説明がなされた。全国大会にノミネートされた審判員・審判長・副審判長・チーム関係者を対象に約190名に招集をかけ、120名が参加し、2泊3日広島市で行った。内容については機関誌等で報告したが、旅費の平均負担方法について、参加者から不評が出ており15年度には見直す報告がなされた。
④審判員の海外派遣について説明がなされた。
⑤全日本総合審判員ノミネート方法について説明がなされた。
⑥平成14年度公認審判員登録状況について説明がなされ、終身審判員の登録についても述べられた。
⑦競技規則書必携の発行遅れについて説明がなされた。
⑧ toto 助成事業について説明がなされた。
⑵審査委員会報告
レフェリーコース、実業団ペア、全国大会評価について説明がなされた。
⑶各ブロック活動報告
各ブロック長より活動報告などがなされた。ブロック長を通しての連絡経路にパイプづまりの傾向があるので、改良してほしい要望あり。

⑷各連盟活動報告
各連盟長より活動報告などがなされた。
⑸日本リーグ審判委員会活動報告
日本リーグ審判委員会より活動報告などがなされた。
⑹競技規則研究委員会活動報告
競技規則委員長より活動報告などがなされた。
⑺国際委員会活動報告
国際委員長より活動報告などがなされた。
⑻総務委員会活動報告
総務委員長より活動報告などがなされた。
⑼ジャパンオープン・国体・総合選手権報告
審判部長より報告がなされた。チームタイムアウトの要求タイミングが、パッシブシグナルが出てから要求する新しい傾向が見られた。
⑽視聴委員会報告
委員長よりステップに関する映像資料を作成していることの報告がなされた。
⑾NTSでの審判関係について
審判部からも参加させることについて審判部長より説明がなされた。

■審議事項

1．平成14年度残事業について
⑴JHAレフェリーコース後期は3月26日から28日まで名古屋で行う。
2．平成15年度審判委員会事業計画と予算について
別紙の通り事業計画及び予算が示され、承認。予算については、日本協会の財政が苦しく15％削減が求められたこと。このことから、部長より特に財源確保のためのサポート会員の確保、及び審判関係のグッズあるいはユニホームの購入等への協力が求められた。
3．平成15年度全日本大会審判割り当てについて
全国大会審判団編成の骨子。
①各都道府県のNo.1レフェリーをいずれかの全国大会にノミネートする。
②各ブロックの上位推薦を優先する。
③開催地の経費軽減を考慮する。
を承認した。
各大会での各ブロックへの審判割り当て希望数が確認された。
推薦の手順は、以下の点が確認された。
●各都道府県部長から各ブロック部長への推薦希望……2月10日まで
●各ブロック部長から斉藤審判部長への推薦……2月末日まで
4．平成15年度公認A／B級審判員審査について
⑴平成15年度上級審査申請者の表より
A級申請33名中、31名が書類審査合格。
B級申請35名中、30名が書類審査合格。
⑵審査会について
審査会の場所、日時、対象者、担当審査員が確認された。
5．平成15年度トップレフェリー研修会について
昨年全国大会にノミネート去れた審判員・審判長・副審判長・チーム関係者約190名を対象に研修会を行ったが、本年度も同じ規模で行う。
9月27・28日神戸市、オリンピック予選の期間中IHF／PRCスタインバッハ委員長を講師に招き、講演をお願いする。
今年度は、補助金がないため、参加者は交通費・宿泊費負担となる。
この研修会に、スポーツ振興基金の助成が受けられるか否か今後研究する。
承認された。
6．平成15年度ＪＨＡレフェリーコースについて
従来前期山梨県、後期愛知県で高校生の強化練習をモデルに行っていたが、15年度より大学生を対象とすることを検討している。
承認された。
7．平成15年度全日本大会審判員評価について
8．競技規則について
「GKが自陣に帰ろうとする相手プレーヤーの進路に立ちはだかるオブストラクション的行為を禁止する」が承認された。2月の常務理事会に提案し、承認されたならば「通達」を出す。
9．レフェリーペアについて
レフェリー個人の能力を生かすために、ペアについて考慮することもある。
10．その他
・いぼいぼシューズの件でASICSより靴のシューズの製造禁止とするがどうかと聞かれたので、競技と相談して4月からその制限は撤廃することにする。承認された。
・審判員の目標についての周知徹底を部長より依頼された。
・次回日程は2004年1月23日から25日まで国立スポーツ科学センターで行う。

■研修事項

1．ステップについてビデオ研修を行った
斉藤審判部長よりさらなる協力の依頼がなされ閉会する。

「東アジア連盟への期待」

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

アテネ五輪への出場権をかけたアジア予選（９月23～29日・グリーンアリーナ神戸）が２ヵ月後に迫ってきた。男子は３大会連続、女子は６大会連続で晴れ舞台から遠去かっている日本にとってオリンピック出場は「悲願」である。幸い今回は地元での開催だけに、なんとしても悲願達成を果たし、積年の悔しさを晴らしてもらいたいものである。

さて、その出場国だが、男子が日本、韓国、中国、クウェート、台湾の４ヵ国と１地域の５チーム、女子が日本、韓国、中国、カザフスタンの４ヵ国。加盟国は30を越えるアジアだが、なぜこんなに参加が少ないのだろうか。これら各国にとってオリンピックは魅力がないのだろうか。それとも初めから勝ち目なしと考えているのだろうか。なんとなく不可解である。

ところで、このほど東アジア連盟が設立された。当面は日本、韓国、中国の３ヵ国の加盟だが、将来的には東アジア地域に開放されている。

４月６日に中国・北京で日本からは山下副会長が出席して設立に合意した。会長には韓国の李萬錫氏、副会長は山下氏と中国の李高潮氏がそれぞれ就任した。

現在のアジア連盟はサウジアラビア、クウェートなど中東勢の結束、各大会で審判の不公平なジャッジがたびたび指摘されている。東アジア連盟の設立はこうした問題に対抗する意味もあるものとみられる。

実際の活動としては９月に韓国でジュニア選手権を開催するほか、中国ではコーチ講習会などが予定されていると聞く。

東アジア連盟としては、昨年５月にサッカーが日本など９ヵ国・地域ですでに設立しており、東アジアの結束とレベルアップを目指している。そして５月に初の大会として東アジア選手権の開催を決めていたが、新型肺炎・ＳＡＲＳの影響で延期されたものの、将来的にはフットサルや女子大会の新設も検討しているようだ。

今回のハンドボールの新たな動きは当然ながらレベルアップに貢献するだろうし、東アジアの結束強化に結びつくはずだ。欧州ではチャンピオンズリーグ新構想も伝えられており、東アジアの動きも将来的にはこうした新しいリーグ戦誕生につないでもらいたいものである。

中東諸国に対抗するだけでなく、日韓中が協力し合って東アジア地域の強化、さらには国際経験を積むことで世界との距離を縮めることになれば、今回の設立の意義は計りしれないものになるはずである。

NTS2003

NTSコーディネーター　栗山雅倫

アテネオリンピックの予選がいよいよ近づいてきました。この予選は神戸で開催されることもあり、是非盛り上げていきたいものです。

さて、今回は、今年度よりtotoの助成事業となる、ＮＴＳのtoto内定金額と事業改正決定事項、ＪＯＣの競技者育成プログラム策定マニュアルから、コラムの一部をご紹介したいと思います。

日本ハンドボール協会のＮＴＳは、ＪＯＣのゴールドプランに基づいて展開されております。このような意味からも、ここに掲載するコラム等をご参考いただければ幸いです。また、一つ目のコラムは、ＮＴＳ委員長の蒲生氏によるものです。氏は、ＪＯＣで競技者育成プログラムのチーフを務めております。二つ目のコラムの筆者・久木留氏は、レスリング日本代表のコーチであり、レスリングＮＴＳの担当者であります。

NTS2003・内定金額と事業改正について

1、内定金額

toto申請事業計画総額3,200万円 →内定金額：事業計画総額2,500万円

（前年度比40％程度アップ）

2、事業費改正：決定事項

① 小学生のセンター取りやめに伴う、小学生のブロック充実（各ブロック５名推薦者数アップ、20名までとする。）

② 各ブロック事業計画予算15%削減（前年度比は大幅アップ）

③ ＮＴＳビデオ・教本の各ブロックでの販売金額のキャッシュバック

⇒ 各ブロックトレーニングの運営費へ充当できる。

⇒ ＮＴＳビデオ・教本7,000円／セット（ブロックトレーニング限定）として販売して、5,000円キャッシュバックする。2,000円を日本協会に納める。

3、基本的な考え方（事由・経緯・背景など）

・ 予算枠組みの原則は変更せず、小学生のブロック充実型への移行の前倒しで、対応とすることとする。

・ 交通費全額支給等は、今回からのＮＴＳのメイン変更項目なので、基本的に変更しないことを原則とした。

・ また、ブロック裁量をアップすることにより、運営の建設的改善をはかることとした。その一環として、ＮＴＳビデオ・教本のブロック販売によるキャッシュバック制度や、交通費学割制導入で内容の充実をより強化するなど、今後の発展につなげることを目標に掲げた。

いずれにしても、前回予算よりは上回っているのは事実。今回の機会を前向きに捉え、事業費運営について、本質的な「改善」を促進することとしたい。ご協力よろしくお願いいたします。

JOC・協議育成プログラムマニュアルより抜粋

自分が勝ちたい？

日本では、小学校・中学校・高校・大学といった、教育を中心としたカテゴリーの中で、競技者が育成強化されてきました。よく耳にする話ですが、「今年の新入部員は凄いのが入ってきたので、全国大会に行けるよ！」とある指導者が言っておりました。確かに、能力の高い素質のある競技者が入部してくれることは大切ですが、その競技者を育成したのは、入部する前の良い環境です。言い換えれば、この指導者は「自分が勝ちたいがために、能力の高い競技者が欲しい」と言っているようなものです。このような指導の考え方が強いと、競技者を育成していくことより、指導者本人の勝利が優先され、競技者は将棋に例えるならば「駒」であり、「差し手」にはなりません。そして、入部前の環境で培った財産を伸ばすことができにくく、その財産で競技することになって、大きな競技力向上は望めない可能性があります。

したがって、それぞれの競技者が、

・どのような可能性を秘めているのか？

・いまは何を指導すべきか？

・いつ頃がピークか？

・世界で活躍できるか？

など競技者ごとに育成指導していくことが指導者の重要な任務であるわけです。そういった意味から、「入部前の環境」をよく調査・分析・勉強することが、我々には必要なことですし、その環境をアレンジして「競技者育成プログラム」に取り入れていくことがキーポイントになります。競技団体の各カテゴリーの指導者が、このキーポイント（一貫した指導理念）を理解して、実践トレーニングで活用できれば、能力の高いクリエイティブな競技者が数多く育成できるでしょう！さらに、この競技者は必ず世界で活躍していくはずです。

（プロジェクトチーフ　蒲生晴明）

遊びの中のエッセンス

最近、外で遊ぶ子供たちを見かけなくなった。朝は、登校時間ぎりぎりまで寝ていたり、放課後は塾通い、自宅内でのゲーム遊びが定着している関係からであろうか。数十年前、朝はカブトムシ・クワガタムシ・せみ・魚などを取りに早起きしたものであった。放課後は、川で泳いだり、鬼ごっこ、缶蹴り、水切りなどして、子供のグループを形成しよく遊んだ。ここで、大切なことが言える。発育発達のころ、さまざまな環境がその子供の将来に大きな影響があるということだ。

例えば

・虫取り

虫がいそうな場所を探るために、木に登ったり、木の根元を掘ったりする。木登りでは、手足の３点を中心に登ることを自然に覚えるし、細い枝は、危険であることを体感する。「バランス感覚・左右の手足の使い方」を習得する。

・魚とり

川で石を積んだり、仕掛けをしたり、川下から追い込んだり色々な工夫をする。言い換えれば、魚を採るための「戦略戦術」を子供ながらに実践する。

・缶蹴り

鬼の死角を如何につくか、誰かが囮になって鬼の気をそらすなど、これも「グループ戦術」に繋がる。

・水切り

川で平らな石を見つけて、向こう岸めがけて何回水面を滑らせるか。平らな石を見つけ「投げる動作」を自然に体得する。人より遠くへ・長く・何回も競い合う。

このように以前は、子供の能力がさまざまな環境で自然に育成されてきたわけだが、現在はそういった環境が非常に少なくなっている。しかしこれとは反対に、子供体操クラブ・スイミングスクール・町の道場（昔からあった社会スポーツ）といったシステムやトレーニング方法を確立した取り組みが始まってきた。自然に育ってきたことを新しいシステム・トレーニング方法などによって、昔と同様な狙いを新しいスポーツ環境の中で育成していくことは、競技者にとって大切なことである。

サッカーの世界にはゴールデンエイジ（９～12歳）と呼ばれる世代に、多くの専門的な動き習得の基礎が築かれるという概念がある。この前の世代であるプレゴールデンエイジ（～８歳）に身体へ多くの刺激を入れることが、ゴールデンエイジでの技術の習得に大きな影響があると言われてもいる。このことは、サッカーだけでなく多くの競技スポーツで同じことが言えるであろう。

（プロジェクトメンバー　久木留　毅）

第15回女子世界選手権大会（イタリア）の戦術分析（WHMから）

試合のダイナミックさの明らかな増加(2)

笹倉清則（指導委員会委員長、日本女子体育大学）
岡本大（指導委員会協力委員、国士舘大学）

国際ハンドボール連盟の機関誌である「ワールド・ハンドボール・マガジン（WHM・年4号発行）」には多くの情報が掲載され、その中には戦術分析も含まれている。今号では2001年3号掲載の第15回女子世界選手権大会の分析を指導方法委員会の協力により翻訳し、紹介します。同じくシュートゾーンと状況により、各チームの得点の割合を表したものである。

★決勝進出チームの基本的なセットプレーの概念★

ここでは、1つの得点についてではなくて、展開の動きの構成といった、最も一般的なセットプレーの概念を紹介する。最終的なシュートの局面はそれぞれの状況によって異なる。

1.ロシア

グループ戦術の支配的な要素は、ゴールエリアラインに向かってのセンターからのシンプルで直線的な動きである。図1は左45゜がシュートした形のものを表している。センターはパスと同時にゴールエリアラインに向かって直線的に移動する。左45゜はまず真直ぐに攻撃し、ワンドリブルして鋭く利き腕側にフェイントし、1枚もしくは2枚のブロックを使ってシュートする。

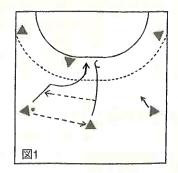



図1

展開と似た右45゜がシュートする形のものである。

センターは左45゜にパスし、ゴールエリアラインに向かって移動する。左45゜は真直ぐに攻撃し、シュートフェイント後、右45゜にパス。右45゜はポストとセンターの2枚のブロックを利用してシュート。この2つのパターンは中央からのシュート（アンダーハンドシュートなど）やシュートブロックの隙間を通したシュートのチャンスを与えた。ゆえに、このシンプルなグループ戦術はとても柔軟で有効なものであった。

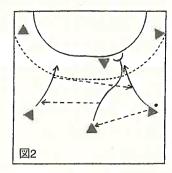



図2

2.ノルウェー

大きなクロスのプレーを使うのが、主なグループ戦術であった。図3は最もよく使うパターンの一つである。センターは左サイドと大きなクロスをする。左45゜のプレー

ヤーは左サイドと平行に動きパスを受け、右45゜の位置からゴールに向かって攻撃する。右45゜のプレーヤーは左45゜のプレーヤーとクロスしパスを受け、自分でシュートするか動いているポストにパスをする。

図3

このパターンを考える時、二つの注目すべき点がある。第一に、これは両サイド側で行えること。第二に最後のクロスが失敗した場合、プレーヤーは動いて戻るか、ポストに入るか、またはサイドに移動する。これはポジション移動が非常に柔軟であり、大変守りにくい。

図4は数的優位の状況における基本的な動きを表したものである。右サイドからパスを受け、右45゜はセンター方向にプレーし、そのまま遠い側のポストに入る。センターはゴールに向かって攻撃する左45゜にパスをする。ディフェンスがこの動きに対応してきたら、左45゜は半円形を描きながら右に移動しているセンターにパスする。センターはクイックでシュートするか（Rokneは頻繁に行っていた）、ポストもしくはコーナーに位置しているサイドにパスする。もしディフェンスが大変素早く移動してきたら、センターは同じ状況になりうる左45゜に早いパスをリターンする。

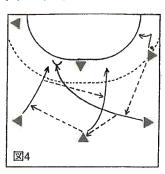



図4

3.ユーゴスラビア

主にパス＆ランといった大変シンプルな2人のコンビプレー（フローターとフローター、フローターとポスト）を他のどのチームより使用していた。

図5はフローターの小さなクロスの後、パス＆ランを表したものである。時々ポストにパスをする。

図5

マーク

図6はセンターが左45゜にパスしてゴールエリアに走りこみ、それと同時に左45゜はフリーの左サイドにパスしたものである。このケースのラストパスはバックビハインドパスであったが、普通のパスの時やポストにパスする場合もあった。

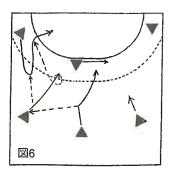



図6

このチームは、北欧の特徴である大きなクロスを多用した。

図7はセンターがゴールエリアラインに走りこんだ後、右45゜が斜め方向に大きく移動したものである。パスの選択肢を持つため、左側のプレーヤーも同時に動く（左45゜、左サイド、ポスト）。バリエーションとしてセンターがポストにパスするパターンがある。この場合、右45゜は進行方向と逆の右サイドにパスをする。

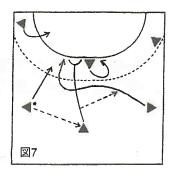



図7

数的不利の状態の時、サイドのためにポストが外側をブロックするという大変面白いプレーがおこなわれた（図8）。右サイドはボールの無い時に右45゜の方に移動する。そして

右45゜と小さなパス交換をし、右に突破を図る。左45゜はこの右サイドの動きに対して再びパスを返す。これと同時に、ポストはサイドの外側に移動し、右サイドがサイドの位置からフリーな状態でシュートができるように、サイドディフェンスの外側をブロックする。もし、ディフェンスがこのブロックから外れたら、ボールは直接ポストにパスされる。チームはこのパターンを両側のサイドで使用した。

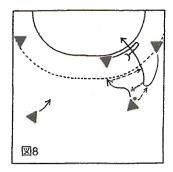



図8

これらすべての動きは、ひとつひとつが独特である。最終局面では、良い状態でシュートができるように、ディフェンスの動きに対応してその時々において状況判断しなければならない。

これはバリエーション豊かなグループ戦術という現代的な考えに一致し、状況判断のできるよう多くの訓練をすることを要求する。この点に関しては、伝統的な固定されたシステムと比較して、セットオフェンスは非常に大きな進歩があったと述べられなければならない。

★セットディフェンス★

驚くほどに、ディフェンスの活動にはオフェンスのような進歩が見受けられなかった。ベスト8進出国のうち、ロシアとフランスだけがディフェンスの概念と働きにおいて独創性を示した。他のチームは、考えや精神なしに、ほとんど平らな6－0システムディフェンスを採用した。そのようなわけで、全体としてロングシュートの成功率が高く、際立った成功率を持ったロングシューター（Rokne/ノルウェー、Eriksson/スウェーデン、Morskova/スペイン）が現れた。

もちろんこのディフェンスシステムは、大きなクロスの動きや対角へのパスには機能し、あわてたジャンプシュートや手打ちのシュートをさせていた。しかし最大のマイナス要因は、ゴールエリアラインからのシュートが非常に多かったことである。現在では普通のディフェンスシステムは効果が無いことを自分たち自身で証明しているのだから、新しいディフェンス方法を探究しなければならない。

活動的で創造性のあるディフェンスをしたことが、スペイン、中国、アンゴラ、韓国が優れた結果を残し、また、多くの時間、平らで消極的な6－0ディフェンスを使用したウクライナとルーマニアが、失望する結果に終わった主な理由である。すべてのチームがディフェンス専門のプレーヤーを利用していたが、その交代方法は違っていた。上位4チームはいずれも、交代選手は1人であったこと、また2人の選手交代はスムーズにはいかなかったことは注目すべき点である。おかしなことに、ノルウェーはチームの基本となる6－0ディフェンスシステムより、5－1ディフェンスシステムのほうがより効果的であった（なおキーパーはLeganger）。

5.ロシア

ロシアは、ほとんどのロングシュートに対して、2枚の堅固なシュートブロックになるような傑出した動きのある6－0ディフェンスを基本としてプレーしていた。攻撃側のサイドプレーヤーから内側にパスが来る場合、センターディフェンダーが高く位置する。これは対角へのパスを妨害し、大きなクロスの動きを無理にさせる壁を作りだす。もしボールが内側から外側に行ったら、センターディフェンダーは守る相手の鋭い内側への切り替えしに対応し下がって平らを保つ。この動きはポストと関係が無いため、図9にはポストは含まれていない。

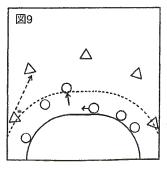



図9

6.フランス

図10は予測による積極的なフランスの6－0ディフェンスを示したものである。ボールのある側の45゜ディフェンダーは高く位置取りする（9mまで）。それにあわせて、しばしばサイドディフェンダーもプレスをかける。センターディフェンダーは、低い位置でラインをそろえ、ボールと反対側の45゜ディフェンダーは、予測してやや攻撃的に前進していく。これはコート中央の溝に相手を導き相手への速いパスをする機会を与えない。

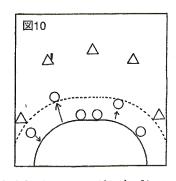
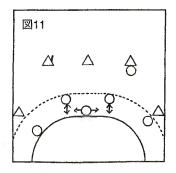



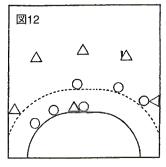
図10

このシステムの弱点は見つけ出されている。ノルウェーは優れたシューターであるRokneをセンターに配置し、フリーな状態でたくさんシュートし、防がれることが無かった。フランスはしばしば代わりのシステムとして5－0+1

ディフェンスを使用した。

図11はセンターディフェンダーを除くすべてのプレーヤーが攻撃的にディフェンスし、スペースを限定していることを示したものである。高い身体的能力と共同して、時折フランスのプレーヤーは激しいディフェンスをし、このシステムは効果があることを証明した。

7.スペイン

スペインは最も創造性のあるチームであった。5－1ディフェンスを基本としていたが、3－2－1ディフェンスや3－3ディフェンス、時には6－0ディフェンスも使用した。このディフェンスシステムの多様性は、攻防における3人の選手交代によるものである。ディフェンス専門の3人のプレーヤーはすべて、動きが素早く、予測能力が高く、1対1において大変力強かった。このチームのセットディフェンスは、ロシアのディフェンスと並んで最も効果的であった。しかし3人の交代選手のせいで、速攻による失点数が多く、速攻に対するディフェンスにおいてやや問題があった。

図12は5－1システムの最も注目すべき形を表したものである。右側のディフェンダーは9mか10mの高さに接近し、3人ずつが平行に位置する形である。下にいるセンターディフェンダーは即座にポストプレーヤーをマンツーマンで守り、前に位置したディフェンダーの背後を動かさないようにする。

スペインはこのディフェンスを片側だけで行い、左側は基本の5－1ディフェンスシステムを使った。それゆえディフェンスにおいて、大変高いレベルに達していた。スペインは時に荒く、無謀であることさえあるが、フランスのように非常に強固なディフェンスをした。

★まとめ★

第一に走力が高いレベルにあったことがあげられる。これはダイナミックなプレーを生み出し、ほとんどのチームが優れたディフェンスにより高い成功率の速攻をくりだす結果となった。いくつかのチーム（フランス、ノルウェー、デンマーク）は交代選手を使う戦術の向上のために相手コートにおいてもディフェンスをする動きをみせた。スカンジナビアのすべてのチームとフランス、それにユーゴスラビアは、ディフェンス専門のプレーヤーも速攻に参加し、その後攻防選手の交代をしていた。

状況判断という点からいうと、非常に大きな進歩がみられた。それゆえセットオフェンスにおけるグループ戦術は大変向上し、考え方もいくつかの支持する動きを基盤にとても柔軟になっていた。

ディフェンスにおける予測と判断により、ディフェンス力もオフェンスと同様に向上した。ゴールキーパーの大多数はそれぞれの国のやり方に従って、高いレベルでプレーした。その時々の状況により、能力の向上しているゴールキーパーによって、ヨーロッパのチームはシュートに対するディフェンスとの連携のための対話が明らかであった。しかし、ゴールキーパーの仕事の役割ははっきりしていた。

6－0ディフェンスの多くの消極的な性質に加えて、速攻を試みようとしない守備専門のプレーヤーの急いだ交代はマイナスだと判断した。この行動は、大変消極的な印象を与える。パッシブプレーの解釈を考えて活動は考慮されなければならない。

攻撃が成功せずに相手側に攻撃権が渡った場合、2人や3人の選手交代（スペインやハンガリー）することは、相手に速攻のチャンスをたくさん与えることにつながる。

すでに言及した選手交代のせいで、速攻を展開していかないための負担に加えて、この大会全体としてはディフェンスより優れていたオフェンスにおいて、サイドプレーヤーの低い能力だけはマイナスと考えられなければならない。最も否定すべきことは、多くのチームのきわめて乱暴な体に向かう考えが、明らかにルールから外れていることである。これは攻撃プレーヤーにカウンターで打撃が加えてしまうのだから、試合を健全におこなうために、早急に明確な規準を設ける必要がある。この方法によってのみ、前述してきた肯定的な要素が、将来において、より魅力的な、質の高いハンドボールへの発展に貢献する余地を見出すことができるだろう。

第1回ハンドボールコーチング研究会報告

指導委員会研究部会　平岡秀雄（東海大学）

スポーツに関わる様々な学会で、ハンドボールを題材にした研究は数多くなされています。しかし、ハンドボールの“楽しさ”に結びつき、ハンドボールの競技力向上に直接寄与する研究がなされてきたかについては、いささかの疑問を感じていました。

そこで、全国の指導者が集まるコーチシンポジウムの機会を利用して、現場の指導に役立つコーチ研究会を開催いたしました。設立に際して協会の指導委員会に研究部会を設置し、研究会がスムーズに活動できるようにして戴きました。

コーチシンポジウムの案内時に研究会の案内を同封させて戴きましたので、研究発表締め切りまで10日足らずの猶予しかなかったにも拘らず、6件の発表希望がありました。

発表第1番目は現役のナショナル選手、山田永子（筑波大学院）による全日本チームの活動分析がなされ、活発な質疑応答で幕が開きました。和やかな雰囲気の中にも、コーチとしての鋭い質問や心和むアドバイスなどがなされ、“ハンドボールの仲間の集い”を感じさせる有意義な会になったと思います。今後は全国の熱心な会員を多く集めて、ハンドボール学会にまで発展させられればと考えています。研究会の内容については下記に示したとおりです。

開催日時：2003年3月7日　19時30分～22時

会　　場：熊本県山鹿市　ホテル寿三　会議室

参加会員：＜順不同、敬称略＞

大西武三（筑波大学）、三輪一義（琉球大学）笹倉清則（日本女子体育大学）、中島昭博（花巻北高校）、土井秀和（大阪教育大学）、斉藤　隆（江津高校）、島田房二（山崎高校）、高柳修一（瑞穂農芸高校）、清水宣雄（国際武道大学）、池田　修（福岡教育大学）、南木雅弘（百合丘高校）、田中守（福岡大学）、山崎英幸（関西女子短期大学）、中川昌幸（関西大学）、村松　誠（駒澤大学）、村山明夫（六ツ川高校）、明石光史（福岡大学）、吉田　久（国士舘大学）、岡本　大（国士舘大学）、北林健治（小林工業高校）、平岡秀雄（東海大学）、水上　一（筑波大学）、井出孝行（西南学院高校）、山田永子（筑波大学大学院）、舎利弗学（東海大学大学院）、栗山雅倫（日本ハンドボール協会）

発表演題：

1、全日本女子ハンドボールチームのトレーニングに関する研究　山田永子（筑波大大学院）

2、各年代の全国大会における試合中のハンドボール選手の移動特性について　舎利弗学（東海大大学院）

3、ハンドボールにおけるゲーム様相に関するモデルの構築　土井秀和（大阪教育大学）

4、平成14年度ＮＴＳ参加選手の体力水準と体力評価　田中　守（福岡大学）

5、ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズムの構築に関する研究　清水宣雄（国際武道大学）

6、スポーツの試合分析ソフトについて　平岡秀雄（東海大学）

研究会の案内

研 究 会：原則として年1回研究会を開催する。

会　　費：年会費　1,000円（大会案内郵送代ほか）

大会参加費　2,000円（大会プログラム費、会場費ほか）

連 絡 先：〒259-12　平塚市北金目1117　東海大学体育学部

平岡秀雄（ハンドボール協会指導委員会コーチング研究部会事務局）

TEL：0463－58－1211（内3581）　E-mail：hiraokah@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

連絡内容：入会金、氏名、年齢、所属、連絡先住所、電話、E-mail アドレス

平成１５年度 第６回ハンドボール研究集会要項

テーマ「ボール運動教材としてのハンドボール －その６－」

平成10年度に発表された小学校新学習指導要領において、ハンドボールが「ボール運動」領域の内容の取扱いの中で、「加えて指導することができる」教材として初めて採用された。このことは、次のようなハンドボールの教材としての価値が認識されたためであると考えられる。すなわち学校体育において、児童や生徒の投能力を中心とした体力・運動能力の低下が指摘されている昨今、ハンドボールは、子どもたちの発育・発達を促すのに適していること。加えて、他のボール運動より、教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが認められたからである。また、小学校期にボールゲームとしてのハンドボールに親しむことは、生涯スポーツへの参加意欲を高めることにもなろう。すでに新学習指導要領が全面実施されているが、本研究集会では、このようなハンドボールの魅力や諸特性に対して認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったハンドボールの授業づくりについて研修する。

主　催　（財）日本ハンドボール協会
主　管　秋田県ハンドボール協会　秋田市ハンドボール協会
後　援　文部科学省　秋田県教育委員会　秋田市教育委員会
対　象　小学校・中学校および高等学校教諭
教員養成大学学生・大学院生および教官
地域スポーツ指導者等
会　期　平成15年7月30日（水）・31日（木）
会　場　秋田大学教育文化学部附属小学校
〒010－0904　秋田市保戸野原の町13－1
℡（018）862－2593　FAX（018）862－2598

日　程

◆７月３０日（水）
受　付　12：00～12：30
開会式　12：30～12：50
講　演　12：50～13：50
講演者　文部科学省教科調査官　渡邉　彰
研究発表　14：00～15：10
実技研修　15：30～17：00
講　師　東京学芸大学附属世田谷小学校副校長　藤井喜一
交流会　18：00～20：00

◆７月３１日（木）
受　付　8：30～9：00
授業提案　9：00～11：00
秋田大学教育文化学部附属小学校４年生「ハンドボール」授業
秋田市立日新小学校５年生「ハンドボール」授業
講　義　11：00～12：00
講師　鹿児島大学助教授　武隈　晃
閉会式　12：00～12：15

事務局　〒010－8502　秋田市手形学園町１－１
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤靖気付
℡（018）889－2577　FAX（018）889－2577
E-mail：yasushi @ ed. akita-u.ac.jp

参加費　4,000円（資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

参加申込　・氏名　・年齢　・勤務先　・連絡先住所　・電話番号　・交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキまたはファックスにて事務局までお申し込み下さい。
1）締切り日：特に設けません。当日も受け付けます。
2）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

発表申込　研究集会のテーマに関係する研究、および実践報告を募集します。発表を希望される方は、上記申込用紙に、発表テーマをご記入の上、事務局までお申し込み下さい。
1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき20分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
2）発表にはスライド、ＯＨＰまたは資料を使うことができます。資料を配布される方は、150部程度ご用意下さい。
3）締切り日：７月22日（火）
尚、資料の送付を希望される方は、期限までに事務局までご郵送下さい。

宿　泊　宿泊を希望される方は、直接下記へお申し込み下さい。その際、必ず「本研究集会参加」とお申し出下さい。
1）申込先：ＪＴＢ秋田支店　担当　村山・松坂
℡（018）862－6193　FAX（018）865－5189
2）宿泊先：三井アーバンホテル秋田　一泊朝食付税金・サービス料込お一人様
特別料金　シングル7,700円　特別料金　ツイン　6,700円

平成15年度第11回全日本ハンドボールマスターズ大会要項

1. **趣旨**　「国民の誰もが、それぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに楽しむことができる生涯スポーツ社会を実現する」〔スポーツ振興基本計画のあり方に対する答申（平成12年度）〕。これは、全日本ハンドボールマスターズ大会が掲げた趣旨に合致するものである。これまでの歩みに自信と確信を持ち、我が国のハンドボールの更なる発展と普及、並びにハンドボーラーのスポーツライフの充実を願って開催するものである。

2. **主催**　㈶日本ハンドボール協会　全日本教職員ハンドボール連盟

3. **主管**
全日本ハンドボールマスターズ大会宮崎県実行委員会
宮崎県ハンドボール協会　宮崎市ハンドボール協会

4. **後援**　宮崎県教育委員会　㈶宮崎県体育協会　宮崎市教育委員会　㈶宮崎市体育協会　宮崎日日新聞社
NHK 宮崎放送局　UMK テレビ宮崎　MRT 宮崎放送

5. **協賛**　スポーツランドみやざき推進協議会　宮崎市旅館組合　大塚製薬株式会社　株式会社モルテン
霧島酒造株式会社　近畿日本ツーリスト
デューパーファイブ株式会社

6. **期日**
平成15年7月25日（金）競技運営委員会、
並びに開会式
7月26日（土）競技
7月27日（日）競技、並びに閉会式

7. **会場**　宮崎県体育館　宮崎市総合体育館　宮崎学園高等学校体育館

8. **試合方式**　大会趣旨に則って、参加するチームを下記の２つの性格のグループに分類してゲームを実施する。ただし、大会本部は交流型グループ、順位決定型グループともに３～４ゲーム行えるようにする。
　組合せは、大会事務局にて原案を作り、競技運営委員会にて決定する。
（１）交流型グループは、いつまでもプレーを続け、ゲームという緊張感を楽しみ、優勝などを求めないグループとする。
　①グループ分けは、チームの希望と平均年齢をもとに大会本部で行う。
　②試合方式はリーグ戦で行う。
（２）順位決定型グループは、ある程度高齢になっても「まだできる」という実感を楽しみ、順位を決めていくグループとする。なお、試合方式は、参加チーム数により大会本部で決定する。

9. **試合時間**　試合時間については交流型グループ、順位決定型グループともに参加チーム数により、大会本部で決定する。

10. **参加資格**　男女ともに年齢制限を設ける。男子は、平成15年度に40歳以上（1964年４月１日生以前)、女子は平成15年度に35歳以上（1969年４月１日生以前）の者であること。

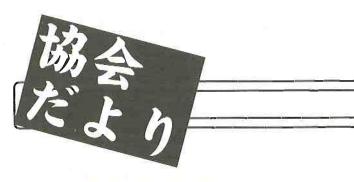
11. **参加人数**
（１）役員は、監督、及び２名の競技運営委員とする。
（２）選手は１チーム20名までとし、各チームは責任者を置くこと（役員は、選手を兼ねられる)。
（３）個人申込者のチーム所属については、大会本部の調整によるものとするが、申込者の希望も受け入れる。
（４）参加チームは２名の競技運営委員を申込書に必ず明記すること。この２名は競技運営が円滑に行えるように協力すること。

12. **参加料**　役員、選手は１名につき4,500円（記念品代を含む）とし、役員と選手を兼ねる場合は１名とする。

13. **諸会議・開会式**
日時：平成15年７月25日（金）午後４時より
会議：宮崎市総合体育館内　大会議室

14. **懇親会**
大会趣旨に則り参加者全員の出席を希望する。
日時：平成15年７月26日（土）午後７時より
会場：ホテルプラザ宮崎本館２階（あらたま）

15. **閉会式**
平成15年７月27日（日）競技終了後直ちに行なう。
場所：宮崎市総合体育館

《大会関係連絡先》
大会事務局　宮崎県ハンドボール協会事務局
担当：富永卓公
〒880－1101
宮崎県東諸県郡国富町本庄5071　本庄高校
TEL：0985―75―2049
FAX：0985―75―2592
学校 E―mail：6006ha @ miyazaki-c.ed.jp
自宅 E―mail：tomi3 @ arion.ocn.ne.jp

平成15年度３月常務理事会

日　時　平成15年３月22日（土）
場　所　駒沢体育館 研修室
出席者　山下副会長、大西専務理事
常務理事８名、監事２名
参事１名、事務局３名

審議事項

1.新年度役職名及び組織図について
担当常務理事の確認、さらなる検討が確認された。

2.ハンドボールフォーラムの件
文部科学省の構造改革制度にもあるので、常務理事が中心になってリードし、早目の６月頃に開催したい。同時に各委員会も併催する予定。

3.外部団体役員の件
ＪＯＣの総務委員に大西専務が担当。別紙の通り承認された。

4.役員の定年制等の規程について
・会長、副会長、監事の就任年齢を75歳、理事を70歳とする。
・役員の報酬、退職金は、支給しない。
以上の通り承認された。

5.アテネアジア予選時のＩＨＦ理事会の件
・大西専務、川上、松原常務が担当。検討を加え、継続審議している。

6.ＡＨＦのアジア選手権開催国の募集について
・都道府県協会に、10年サイクル位で開催するように検討している。
・韓国、中国に受けてもらうよう働きかける。
以上は継続審議とする。

7.強化部より
・ナショナルチームスタッフ（案）、Ｈ15男女ナショナル強化事業計画及び男子候補選手（女子47名は後日発表）の説明があり、承認された。
・コーチ　フレデリック・ヴォルについて継続採用。
・クリチェンコは、３月31日でコーチ職を解く。
以上の通り承認された。

8.ムササビジャパン　プラクティス販売（石井）
・高校選抜大会では、株式会社モルテンに委託販売、10万人会サポート会の割引販売について検討、「ムササビ」のデザイン登録のみ手続きが承認された。

報告事項

1.スポーツマネージメントにかかわるゼネラルマネージャー講座について

平成15年度４月常務理事会

日　時　平成15年４月12日（土）
場　所　日本ハンドボール協会　事務局
出席者　山下副会長、大西専務理事
常務理事７名、監事２名
参事１名、事務局４名

審議事項

1.日本協会組織図について
資料「組織図（案）」が示され、条件付きで承認された。

2.名誉会長、会長就任披露パーティーの件
時期、範囲等詳細をつめて、連絡する。

3.大会派遣役員の件
資料「平成15年度全国大会派遣役員予定（案）」により説明され、メイン大会には会長、都合がつかぬ場合には副会長に出席して頂くとのことで了承。この調整は専務理事に一任された。

4.強化本部組織図及び規約変更の件
・「強化に関する委員会・部会の組織及び役員について」は承認された。
・田場選手企画のハンドボールチャリティーについては承認された。但し、主催は沖縄県協会、後援はＪＨＡ。鈴鹿で合宿中の選手全員の参加は不可、数人が行って手伝う程度。
・「壮行試合」については承認された。

5.アテネ予選の件
参加国の紹介、ＡＨＦ規則・規約に基づく大会日程案、大会告知方法案、予算案が示され承認された。

6.Ｕ－16ブロック大会大会要綱について
「Ｕ－15クラブ大会開催について」「企業スポーツチームの地域連携活動」実施案が示され、承認された。

7.Ｔシャツ販売について
「ハンドボールGOODS販売状況」、「ハンドボールGOODS販売ＰＲの状況」について説明、承認された。

8.協賛金（企業）進捗状況について
売り込みに当たっての協賛メリット、協賛金額等を説明、承認された。

9.ＥＡＨＦ(東アジアハンドボール連盟)について
「ＥＡＨＦ会議議事録」により報告。８／30～９／６にソウルで開催される第１回東アジアジュニアハンドボール選手権大会に男女チームを派遣することが決定した。

10.10万人会還元金について
「平成14年度還元金表」により説明、了承された。

報告事項

1.顧問の件
鶴保庸介参議院議員の顧問就任を依頼する。
2.委員会名簿提出の件
3.アテネ予選壮行試合の件
4.国際スポーツ組織指導者養成のための研修制度
候補者推薦は大西専務に一任された。
5.企業ハンドボールチームの地域連携プロジェクト

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

■4月会員／【北海道】加藤慶仁、大橋幹正【群馬】高橋　泉【埼玉】西山逸成、佐藤秀明【東京】杉山　茂、出原　理、中澤重夫【神奈川】村松　誠、佐分正典、山内朋浩、久保弘毅【長野】加藤雅之、羽田浩一【石川】酒谷信彦【福井】太田　博、由岡あつ子【愛知】金川康夫、西川勤也【岐阜】森　勝博【京都】久保公雄、久保靖子【大阪】小山　章、藤田洋之、村川雅哉、逢阪静男【和歌山】能木　進【広島】大橋季彦、山手文雄【山口】柳井文治【香川】馬場文彦【愛媛】松原一恵、松原誠起【高知】平野まゆみ【福岡】佐伯紘一、和佐野健吾、稲積　恵、出口智昭【熊本】佐久間克彦【大分】小田晴美、阿部末忠

■5月会員／【北海道】山辺文彰、武田節夫、清水幸彦【岩手】多田和生、菊池克幸、高橋元一、菊池正道、田原倫夫、熊谷一史、太田利彦【栃木】八木　豊【群馬】高橋萬知子【埼玉】佐藤美貴、西濱弘幸【千葉】高橋勝彦【東京】塩川安賢、緑川正博、吉田久士【神奈川】斎藤達也、吉澤和美、近久紀人、松岡正彦、松井幸嗣、小澤摩里子、伊藤信夫、斉藤航大【愛知】安藤　孝、村木啓作、浅野克彦、藤澤健【三重】堤　政近【大阪】伏田雅人、中山恒志、大井隆史、北岡大覚、吉田敏明、ﾎﾃﾙｸﾗｲﾄﾝ江坂、門元良子、尾崎浩祥、草井文子、幸田富久子、幸田敦子、大西和雄【兵庫】狩野幸介、都倉達殊、狩野祥信、松本茂宏、山本英明【広島】有田　忍、高田馴三【愛媛】河本武夫【福岡】下田昭弘、田中　守、松尾勝也【長崎】石塚大河【熊本】中川光明

平成15年度版競技規則必携発行のお知らせ

平成15年度版競技規則必携が発行されました。今回は解説部を大幅改訂し、競技規則に関する演習問題240台を加えるなど内容盛りだくさんになっています。購入希望者は下記の事項を記入の上、現金書留にてお申し込み下さい。

タイトル：『平成15年度版競技規則必携』
価　　格：1,500円（送料込み）10本以上お申し込みの場合は、1冊1,400円
申込先：〒150－8050　東京都渋谷区神南1－1－1
日本ハンドボール協会『平成15年度版競技規則必携』申込係
記入事項：注文冊数、購入希望者氏名、送付先（郵便番号、住所、TEL）

【7月の行事予定】

常務理事会　7月12日(土)
アテネオリンピックアジア予選壮行試合（日本代表vsエジプト代表）
　7月17日(木)　18:00～　神奈川:横浜文化会館
　7月19日(土)　14:00～　愛知:枇杷島スポーツセンター
　7月20日(日)　15:00～　福井県営体育館
第23回全国クラブ選手権大会・西　7/11～13　福岡県大牟田市
第11回全日本マスターズ大会　7/25～27　宮崎県宮崎市
第23回全国クラブ選手権大会・東　7/25～27　福島県本宮町
第54回全日本高校選手権大会　7/29～8/3　長崎県佐世保市・小佐々町
第44回全日本実業団選手権大会　7/30～8/3　新潟県柏崎市
NTSブロックトレーニング　各地

HAND BALL CONTENTS Jun・Jul

（登録チームの購読料は登録料に含む）

2003コートの主役

PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革

PKCH2-AD　　¥4,500

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革

http://www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四四一号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成十五年六月二十六日印刷
平成十五年七月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 [illegible]二〇－七－一〇二九三

編集兼
発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円